圭陵会FAXニュース

発行所：岩手医科大学圭陵会
発行人：石川　育成　　編集人：酒井　明夫
連絡先：TEL 019-624-8386　FAX 019-624-8380
E-mail:info@keiryokai.gr.jp

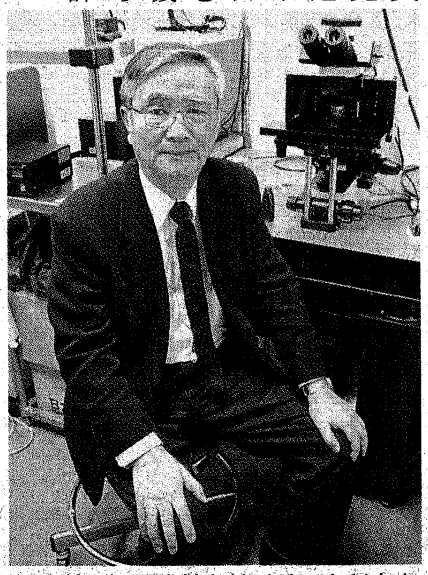
第２０号内容
・学士院賞に二井氏
　岩手医大教授
　合成酵素の構造を解明

岩手日報　H24.3.13

学士院賞に二井氏（岩手医大教授）

合成酵素の構造を解明

２０１２年度の日本学士院賞に岩手医大薬学部長の二井将光（ふたい・まさみつ）教授(71)＝生化学・薬学＝が選ばれた。生命活動のエネルギー源となる化学物質、ＡＴＰ（アデノシン三リン酸）を生産する「ＡＴＰ合成酵素」の構造と機能を解明するなど、生命活動の深奥に迫る一連の研究が高く評価された。



「素朴な疑問を持ち続けることが大事だった」と研究生活を振り返る二井将光教授＝矢巾町・岩手医大薬学部

全国から計10人　6月に表彰

12日開かれた日本学士院（久保正彰院長）の総会で正式決定した。二井教授の研究は「生物エネルギー生産（転換）機構の研究」。岡山大教授時代の１９８０年ごろから成果を積み重ねてきた。

ＡＴＰ合成酵素がタンパク質分子の一部を回転させ、効率的な化学反応でＡＴＰを合成することを示したほか、よく似た別の酵素（水素イオン輸送ＡＴＰアーゼ）がインスリン分泌や骨の形成、神経機能など生体機構に幅広く関与していることを実証した。

この研究成果により、がん転移や骨粗しょう症の予防にも応用が期待される。二井教授は「非常に地道な仕事の積み重ねだった。優秀な人たちと一緒に研究できたことに感謝したい」と日本学士院賞選出を喜ぶ。

二井教授は東京都中野区出身。東京大大学院を修了後、米コーネル大などで研究を重ねた。岡山大教授、大阪大教授を経て、２００７年の岩手医大薬学部新設とともに初代学部長に就任した。

日本学士院賞は特に優れた論文や研究業績に授与され、国内の学術賞で最も権威がある。１９１１年度から始まり、今回で１０２回目。表彰式は６月上旬に行われる。

日本学士院によると、本県関係の受賞者は92年度の故高橋延清さん＝森林学者、西和賀町出身＝以来となる。戦前には言語学者の金田一京助らも受賞している。

日本学士院賞には二井教授のほか、難波啓一大阪大教授(60)や、吉川一義京都大教授(64)ら９人が選ばれた。難波、吉川両氏には恩賜賞も贈る。

二井教授を除く受賞者と授賞理由は次の通り。（敬称略）

【日本学士院賞・恩賜賞】

吉川一義（よしかわ・かずよし）京都大教授、フランス文学、64歳。プルーストの小説「失われた時を求めて」の成立過程を解明。大阪市出身。京都市在住。

難波啓一（なんば・けいいち）大阪大教授、構造生物学、60歳。細菌のべん毛などの立体構造を原子レベルで解明。兵庫県尼崎市出身。大阪府茨木市在住。

【日本学士院賞】

中西聡（なかにし・さとる）名古屋大教授、日本経済史、49歳。19～20世紀初頭に、北海道産のニシン肥料を運んだ北前船の商人活動の研究。愛知県出身。

梶田隆章（かじた・たかあき）東京大教授、物理学、53歳。岐阜県のスーパーカミオカンデ実験で、ニュートリノの質量を証明。埼玉県東松山市出身。同県越谷市在住。

高柳邦夫（たかやなぎ・くにお）東京工業大教授、物性物理学、65歳。シリコン表面の原子配列を解明。超高真空電子顕微鏡法を開発した。東京都文京区出身、在住。

木村孟（きむら・つとむ）東京工業大名誉教授、地盤工学、74歳。遠心模型実験装置を用い、地盤の挙動の予測を可能にした。東京都中野区出身。東京都八王子市在住。

佐藤文彦（さとう・ふみひこ）京都大教授、植物細胞分子生物学、59歳。医薬関係に使われる有機化合物イソキノリンアルカロイドを微生物で生産。京都市出身、在住。

熊谷英彦（くまがい・ひでひこ）石川県立大特任教授、応用微生物学、71歳。佐藤文彦氏との共同研究。京都市出身。石川県白山市在住。

坂口志文（さかぐち・しもん）大阪大教授、免疫学、61歳。免疫を抑える制御性Ｔ細胞を発見、アレルギーや病気との関わりを解明。滋賀県長浜市出身、京都市在住。